



証券コード: 7963

平成26年12月期 第2四半期決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

平成26年12月期 第2四半期決算概要

営業の経過及び成果

当第2四半期連結累計期間(平成26年1月～6月)におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直し、そして雇用情勢や所得環境にも改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済環境のもと、当社グループは対処すべき課題と捉える「クリーン事業の確立(KOACHテイクオフの実現)」及び「マスク関連事業の強化」等への取り組みを行った結果、売上高は35億15百万円となりました。

利益につきましては、営業利益1億39百万円、経常利益1億3百万円、四半期純利益29百万円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

(マスク関連事業)

災害対策用マスクの備蓄が一巡したことで、原子力発電所及び官公庁向けの需要は昨年同比減少しました。その一方で国内景気の回復にともなう民間製造業のマスク需要は増加傾向にあり、消費税増税前の駆け込み需要も一部商品で発生しましたが、第2四半期連結会計期間に入ってからの目立った落ち込みもなく受注は堅調に推移しました。

また、感染症対策用マスクは全国の保健所での採用率が7割となるなど、医療分野におけるシェア拡大が進んでいます。

これらの結果、当事業の売上高は31億22百万円となりました。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」につきましては、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学iPS細胞研究所様など最先端の研究機関での採用に加え、民間製造業への納入も増加しております。なお、6月末現在の「KOACH」の物件情報数は1,000件を超え、今後の受注増が期待されます。

こうした「KOACH」事業の進展などにより、当事業の売上高は3億92百万円となりました。

昨年発売のスリープモード付きオープンクリーンシステムKOACH「フロアーコーチExp・Ezp」が、第44回(2014年)機械工業デザイン賞の最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞いたしました。「独創的な技術開発成果を基盤としてデザインによる企業独自のバランス解を創出している」と評されての今回の受賞は、「KOACH」事業の確立促進に大きく寄与するものと思われま

なお、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

業績の概要

(単位:百万円/端数切り捨て)

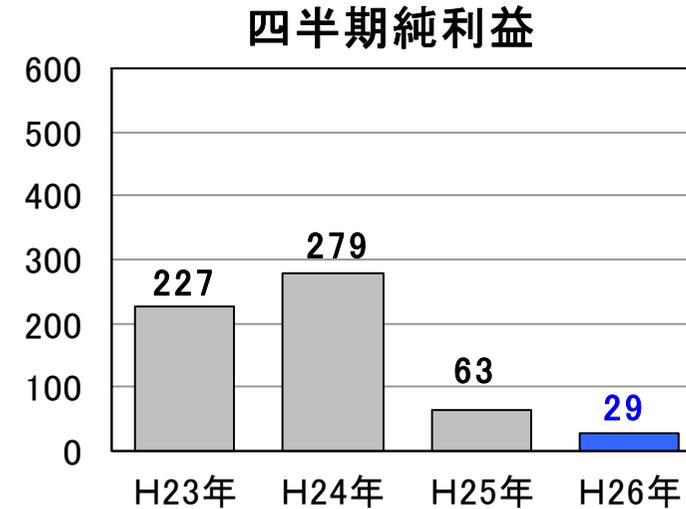
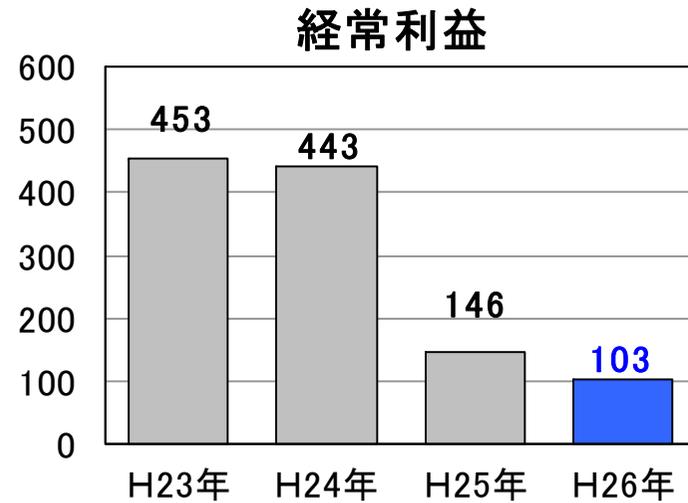
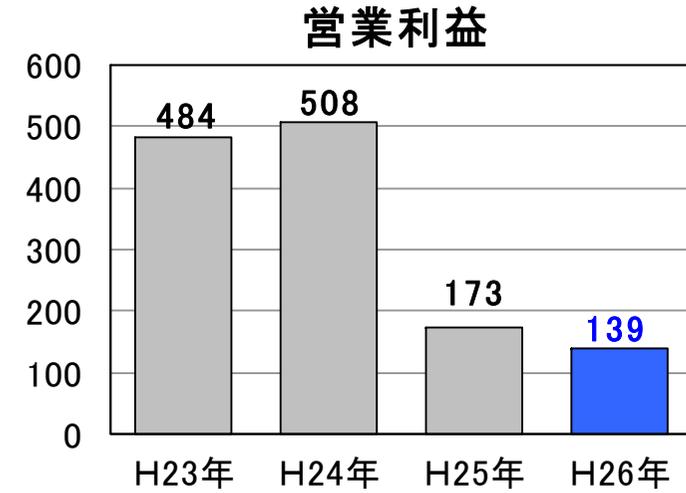
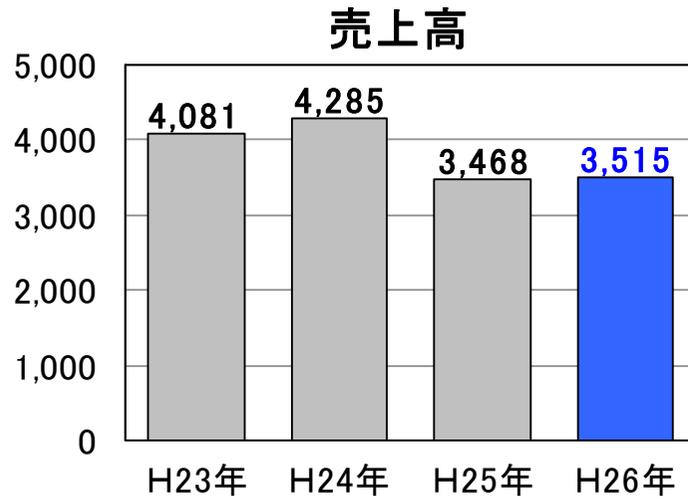
	平成25年12月期 第2四半期(非連結)		平成26年12月期 第2四半期(連結)	
	金額	比率(%)	金額	比率(%)
売上高	3,468	100.0	3,515	100.0
売上総利益	1,563	45.1	1,608	45.8
営業利益	173	5.0	139	4.0
経常利益	146	4.2	103	2.9
四半期純利益	63	1.8	29	0.9
1株当たり四半期純利益(円)	12.48	—	5.93	—

	平成25年12月末(非連結)	平成26年6月末(連結)
総資産	15,465	15,293
負債	6,785	6,691
純資産	8,679	8,602
自己資本比率(%)	55.9	56.0
1株当たり純資産(円)	1,713.23	1,691.88

※平成26年12月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前連結会計年度との比較は行っておりません。

売上高・利益の推移

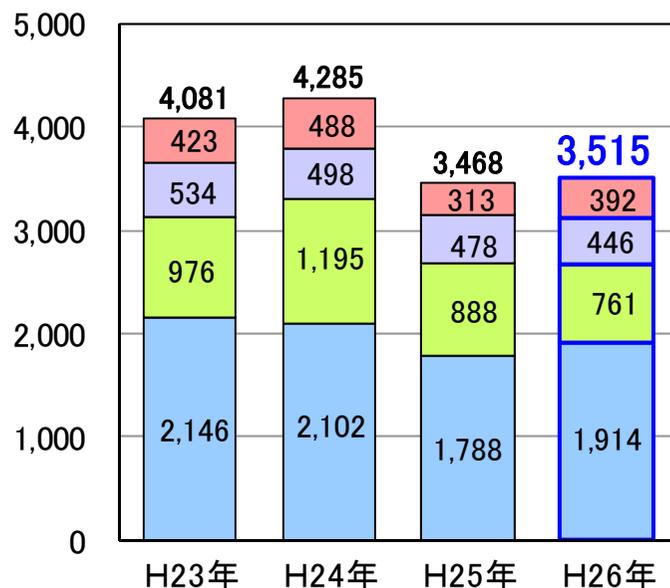
(単位:百万円/端数切り捨て)



※平成26年12月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成し、連結ベースの開示を行っております。

セグメント別売上高の推移

(単位:百万円/端数切り捨て)



事業の状況

マスク関連事業(防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)
 震災特需の反動があるものの、民間製造業のマスク需要は増加傾向にあります。また、全国の保健所や感染症指定医療機関など、医療分野のマスク販売は堅調でした。

その他事業(環境関連事業等を含む)
 オープンクリーンシステム「KOACH」は、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学iPS細胞研究所様など最先端の研究機関での採用に加え、民間製造業への納入も増加しております。なお、6月末現在の「KOACH」の物件情報数は1,000件を超えており、今後の受注増が期待されます。

品目区分	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
防じんマスク	2,146	52.6%	2,102	49.1%	1,788	51.6%	1,914	54.4%
防毒マスク	976	23.9%	1,195	27.9%	888	25.6%	761	21.7%
マスク関連その他製品	534	13.1%	498	11.6%	478	13.8%	446	12.7%
小計	3,658	89.6%	3,796	88.6%	3,154	91.0%	3,122	88.8%
その他	423	10.4%	488	11.4%	313	9.0%	392	11.2%
合計	4,081	100.0%	4,285	100.0%	3,468	100.0%	3,515	100.0%

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社のみの数値を掲載しております。

トピックス

◇様々な分野で採用が進むオープンクリーンシステム「KOACH」

当社が生み出したオープンクリーンシステム「KOACH」は、廉価でどこでも簡単に導入でき、実に使いやすいスーパークリーン空間を作り出すクリーン化装置です。

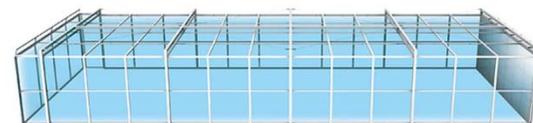
「KOACH」は、①圧倒的に清浄度が高く、クリーン度の維持も楽、②建屋でなく機器なのでコストが安い、③オープンなので、使い勝手が良い、④消費電力が低い、⑤ルーム型コーチは、移動が可能で拡大縮小もでき、クリーンを必要とする限り投資に失敗しない、⑥天井に重量物がなく地震に強い、⑦設置期間が圧倒的に短い等の導入メリットにより、“研究室を変える・生産現場を変える”クリーンシステムとして産業技術や研究開発など、様々な分野での採用が進んでいます。



オープンクリーンベンチ



テーブルコーチ



フロアコーチEzp

○主な採用先

研究機関	大学
宇宙航空研究開発機構 JAXA 相模原キャンパス	東北大学 AIMR原子分子材料科学高等研究機構
産業技術総合研究所 ナノスピントロニクス研究センター	東北大学 東北メディカルバンク
産業技術総合研究所 太陽光発電工学研究センター	東京大学 宇宙線研究所 重力波推進室
理化学研究所 大型放射光施設スプリング8	東京大学 大学院光量子科学研究センター
理化学研究所 和光研究所 情報基盤センター	東京大学 分子細胞生物学研究所
物質・材料研究機構 材料信頼性実験棟	中央大学 理工学部生命科学科
食品総合研究所 ナノバイオ工学ユニット	京都大学 iPS細胞研究所
国立天文台 重力波プロジェクト推進室	京都大学 生態学研究センター
海洋研究開発機構 地球深部探査船「ちきゅう」	広島大学 大学院先端物質科学研究科 分子機能生命科学
情報通信研究機構 未来ICT研究所	山口大学 大学院理学部 理工学研究科

◇フローコーチExp・Ezpが「機械工業デザイン賞 最優秀賞(経済産業大臣賞)」を受賞

この度、スリープモード付きオープンクリーンシステムKOACH「フローコーチExp・Ezp」が日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞で最優秀賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。

本賞は、性能向上や産業振興のため、新しいデザインの在りようを明らかにしていくことを目的に、1970年、日刊工業新聞社が経済産業省の後援、日本商工会議所、各工業団体の協賛を得て創設されました。生産財を主な対象として行われる審査は、的確な企画で独創性があり、①機能・品質が優れ、安全性の条件を十分に満たしていること、②造形処理が総合的によくまとめられていること、③合理的価格であり、市場性および社会性の高いこと、を基準とされています。審査委員会は関係省庁、大学、各工業団体の権威者で構成されており、委員代表の千葉大学青木弘行名誉教授からは、「フローコーチExp・Ezpは、独創的な技術開発成果を基盤としてデザインによる企業独自のバランス解を創出している。」とご講評をいただきました。

過去に最優秀賞を受賞した製品の中には、全自動金属加工システムなどの生産機械などのほかに、CTスキャナやファイバースコープなどの医療機器、スーパーコンピュータや汎用シーケンサなどの精密機械、500系新幹線やリニア地下鉄3000系車両など、各時代のデザインの方向性を示唆する先端的製品として高く評価される製品が並んでいます。

これまでその機能性や独創性が高く評価されてきた「KOACH」ですが、本賞の受賞によって機能性、独創性はもとより、造形処理の優秀性や市場性、社会性も高く評価していただく結果となり、今後の事業展開を強力に後押ししてくれるものと期待しております。



贈賞式に出席された各賞受賞の企業代表者。前列左から5人目 株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長 井水治博氏、同6人目 経済産業省商務情報政策局長 富田健介氏、同7人目 弊社代表取締役社長 村川勉



受賞講演を行う
弊社代表取締役社長 村川 勉



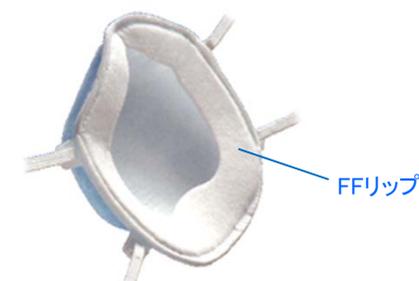
受賞したフローコーチEzp(スリープモード付き)
夜間、休憩、休日などの作業休止時には、スリープモード
運転に切替えてスライドスクリーン開口部を閉じ、クリーン
ゾーン内部を陽圧状態に保ちながら消費電力をオープン
時の約70%カットすることができる

◇FFリップのフィット効果が評価され、「ハイラック」シリーズの販売が拡大

当社には医療、一般消費者向けマスクとして、大人用、子ども用合わせて6品種の「ハイラック」シリーズ(表参照)があります。その最大の特長は、マスク内側の全周に施されているフリーフィット(FE)リップ(写真参照)で、顔の立体構造になじみやすい曲面で設計され、その幅広い接触面や高い柔軟性、適度な反発性などにより、安定したフィット性を生み出しています。

北里大学労働衛生学の川島正敏先生や公衆衛生学の和田耕治先生らの研究では、DS2/N95マスク「ハイラック350型」の漏れ率1%未満の被験者数が9割であったのに対し、このリップ構造がないカップ型N95マスクでは漏れ率1%未満は5割であったとの報告がなされています。「ハイラック」シリーズの高フィット性能が高く評価され保健所では採用率が7割を超えるなど、販売が拡大しています。

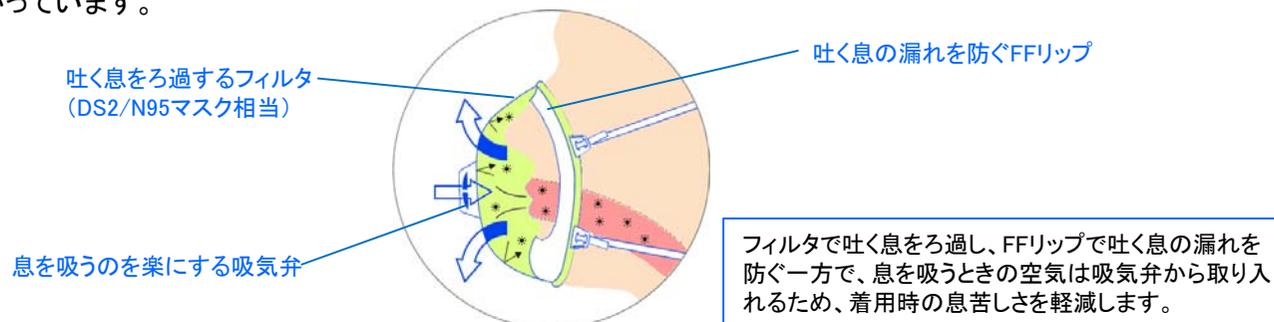
標準型 (感染症患者または健康な人用)	感染症患者専用	健康な人用
ハイラック 350型  ハイラック KIDS (子ども用) 	ハイラック うつさんぞ  ハイラック KIDS うつさんぞ (子ども用) 	ハイラック かからんぞ  ハイラック KIDS かからんぞ (子ども用) 



漏れの原因となるすき間の発生を防ぎ、口、鼻をしっかりと隔離します。

※「ハイラック」シリーズを株主優待品として活用。株主優待として、保有年数、株式数に応じた上限数まで100%割引、30%割引で購入できる安全・安心チケットを送付しております。

感染症の拡大を防ぐためには、感染した患者を隔離し、健康者との接触を断つことが重要です。当社は個人隔離を目的とした感染症患者専用のマスク「ハイラック うつさんぞ」を数年前から販売しており、現在では外来受付や透析療法の際に感染の疑いがある患者に着用させるなど、その使用が広がっています。

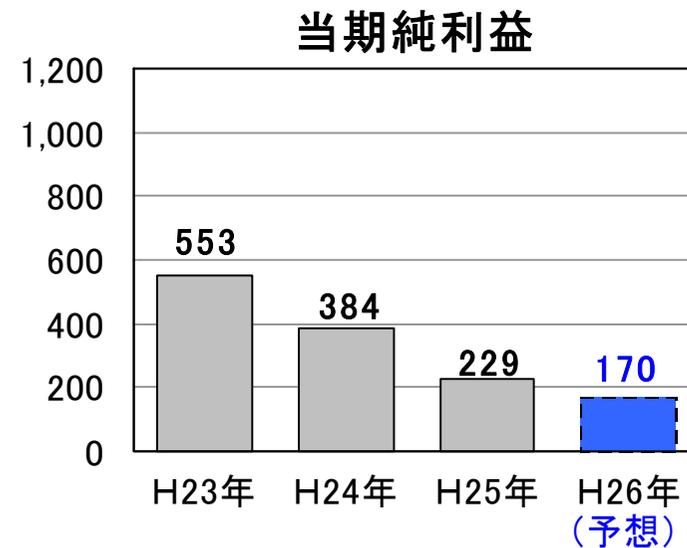
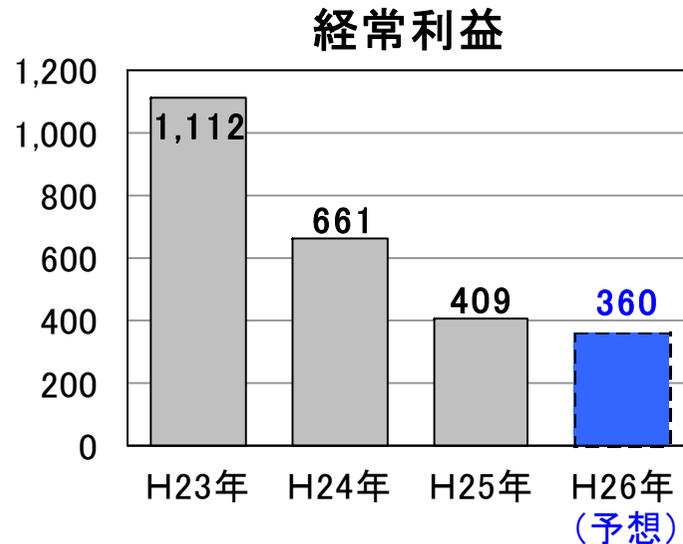
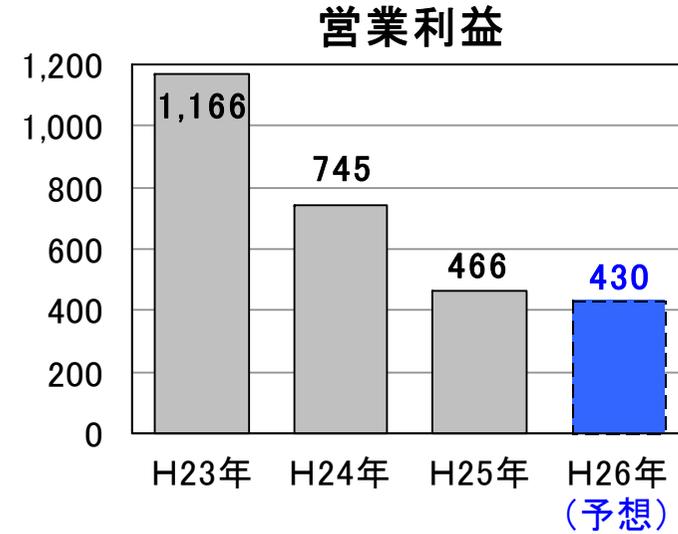
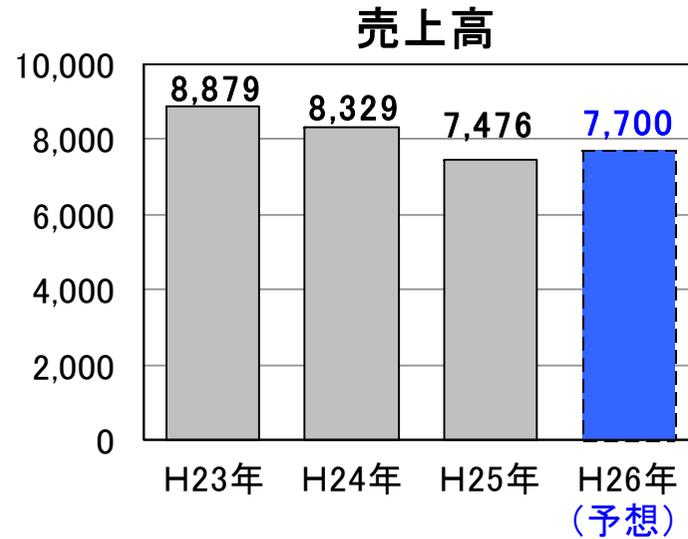


フィルタで吐く息をろ過し、FFリップで吐く息の漏れを防ぐ一方で、息を吸うときの空気は吸気弁から取り入れるため、着用時の息苦しさを軽減します。

平成26年12月期の業績予想

通期 業績予想

(単位:百万円/端数切り捨て)



※平成26年12月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成していることから、業績予想も連結で算出しております。
 ※平成26年2月12日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日（平成26年8月8日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>